

# 中里の慶昌院の幽霊

昭和六十一年八月五日号

中里一丁目に慶昌院けいしょういんというお寺があります。

この寺は、弘仁十年(八百十九年)弘法大師が建てたといわれ、昔は天念寺と呼んだと伝えられています。今回は、この慶昌院に伝わる幽霊ゆうれいのお話です。

## お化けの出るお寺

江戸時代初めのことです。各地をめぐるついでに駿府の存鯨和尚ぞんけいわしやうは、荒れはてていた天念寺を見て、そのわけを村人に尋ねました。

村人は「この寺にはお化けが出るので、だれも寄りつきません。お化けを退治してください」と言いました。



その晩、和尚はお堂で座禅を組んでお化けの出るのを待ちました。

草木も眠る丑三つどき(真夜中)、怪しい影が和尚に近づきました。

「わしは、存鯨という坊主だが、そこにいるのはだれか」と静かに尋ねました。あやしい影は「あなたは、迷えるものを救い、成仏できるように導いてくださるか」と言いました。和尚は「しかり」と答えました。

鬼の姿をした怪しい影は、たちまち人の姿になって、次のように和尚にたのみました。

「私は源頼朝公の家来で、成田慶昌という者です。私の兄の曾我兄弟は、親のかたきを討ちましたが、殺されました。私も首をはねられるに違いないと思ったので、切腹しました。死骸は松の根元に埋められ祭られました。

が、戦国の世となり寺は荒れてしまいました。どうぞ、私が成仏できるよう寺を再興してください」

和尚が寺の再建を約束すると、成田慶昌の姿は消えました。人々は改めて、ていねいに葬り、供養しました。

## 子供たちに伝えたい

山田とらじさん(中里一丁目)

中里一丁目の山田とらじさんは、「毎年三月二十一日に、弘法さんのお祭りと一緒に供養しています。年寄りしか話を知らなくなってきたので、子供たちに伝えていきたいね」と語ってくれました。